

名家連ニュース

令和3年3月23日(火)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 堀田 明
TEL/FAX(052)846-5576 NO.793号

連続講座 精神疾患の理解と対応 2 第10回(最終回)

本間貴宣さんによる連続講座の最終回が、3/18(火)、総合社会福祉会館7階大会議室で開催され、44名が参加しました。

8人の物語のおさらい:

8人のリカバリーストーリーを聞いてきました。それぞれ、きっかけは異なり、何がきっかけになるかはわかりません。けれども、他者と融合していくという点が共通していると思います。

学びや気づきの共有:

参加者がグループに分かれて、印象に残っていること、気づいたことを話し合いました。

おわりに 語ることの意味:

本人、家族、専門家が対等に話し合っ問題解決するやり方(コ・プロダクション)が、今後必要となっていくと思います。現状では、当事者の声反映されていないと思います。

なんともならないとき、どうしていけば良いか?すべてが科学的に解決できるというのは、幻想ではないでしょうか。自分で納得できる物語もまた、解決の一つだと思います。

< 8人の物語のおさらい >

- ① Sさん女性 家族の愛情に気づいた、家族の膿
- ② Yさん男性 意外なる希望の人生
- ③ Yさん女性 家族はいらぬ
- ④ Iさん女性 水虫と付き合う
- ⑤ Fさん男性 「怒り」の感情
- ⑥ Iさん女性 自分と向き合う
- ⑦ Hさん男性 家族と向き合う、期待しすぎない
- ⑧ Nさん男性 塞翁が馬

【まとめ】

- ① 他人の心は、わからない。
- ② 自分の心すら、よくわからない。
- ③ わからないのだから、簡単に原因に飛びつかない。
- ④ わからないのだから、対話をするしかない。
- ⑤ 本人に語ってもらい、教えてもらうしかない。
- ⑥ 対話を通して、自分が納得できる物語を作っていく。



「コ・プロダクション」



質疑応答:

- Q:オープンダイアログが良いと思いますがどうですか。—A:何故、フィンランドのあの地方でうまく行ったか?当地では病気を人間関係のもつれと見なしていた。それでうまく行ったのだと思っています。
- Q:対話が苦手です。対話しても人によってアドバイスが異なる。—A:対話は難しいです。会話と対話は異なります。聞く番の時は、聞くことに徹する必要があります。アドバイスが目的ではありません。
- Q:いじめが原因で2年前に発症。親として何が出来るか?—A:対話をしてください。言いたいことがあっても一歩踏みとどまる必要があります。

◇本間さん、当事者の皆様、参加者の皆様、ありがとうございました。特に今年度は、コロナ下でも無事に最終回に漕ぎつけることができ、ほっとしています。(講座内容紹介:担当理事/広瀬)